

地域包括ケアシステムの中の

サービス付き高齢者向け住宅の役割について

SOMPO ケア株式会社 そんぽの家S新横浜西

副ホーム長 大館 慎吾

1. はじめに

地域包括ケアシステムの中でサービス付き高齢者向け住宅はどんな役割を持っているのか？私が勤務する「そんぽの家S新横浜西」は入居者様には「住まい」の役割があります。「生活支援」のサービスによって「住まい」を中心に介護、医療、薬局、福祉用具、理学療法士など、外部の専門機関と連携をとりホーム内で小さな包括ケアシステムが出来ています。しかし、入居されていない方には何も提供していません。ご自身が建てた家で暮らし続けたいと願う地域住民にとっては関係のない建物です。そんぽの家Sは地域に対して何が出来るのか？そんぽの家Sが地域に求められている役割は何か？それを私は考え始めました。

2. 事例や取り組み方の紹介

城郷小机地域包括支援センターにて地域の課題について聞き取り調査を実施。

地域の課題	そんぽの家Sの課題
<ul style="list-style-type: none">・高齢者が介護予防で集まる開催場所が少ない。・介護保険制度や支援サービスが周知が難しい。・見守りネットワークの構築が十分に出来ていない。	<ul style="list-style-type: none">・地域との交流がなく、館内の狭い人間関係で生活している入居者様が多い。・介護予防など活動の場所が少ない。

介護予防の活動、人との交流の場が少ない事が、地域とそんぽの家Sの課題として一致しました。そんぽの家Sの地域での役割としてそんぽの家Sで地域住民も参加する介護予防イベントを開催する事を考えました。しかし、そんぽの家Sの提供サービスに介護予防のアクティビティはなくイベントの為の職員もいません。一時的に開催するのであれば職員の確保は可能ですが継続して開催するには外部の協力が必要でした。インターネットや地域の掲示板を活用し、信頼できるパートナー、地域の社会資源の発掘からスタートしました。複数の団体と面接した結果、同じ町内で地域住民の居場所づくりの活動をしていた団体「濱なかま」の代表と出会いました。互いの志に共感し、そんぽの家S新横浜西で地域に開放したイベント「とりやまの郷」を開催する事となりました。主催は「濱なかま(地域住民)」とし、そんぽの家S新横浜西は場所の提供、イベント運営のサポートとして活動。濱なかまは介護に関係ない団体の為、イベント企画の打ち合わせは密に行い、要介護者への注意事項、企画内容へのアドバイス、相談ごとは丁寧に対応しました。イベント実行は濱なかまのメンバーが行いますが、外から参加される地域住民への挨拶とお礼、会場までのご案内はホーム説明も兼ねて副ホーム長が実施。館内から参加される入居者様への説明やフォローも職員で対応。地域とホームが協力し合い、入居者様と地域住民と一緒に参加するイベント開催に成功しました。2018年の開始当初は不定期開催であったが、徐々に実績を積み、地域からの参加者も増え、現在は月4回の定期開催に加えて季節の特別イベントも開催されています。2019年4月からは、この活動が横浜市の介護予防サービス補助事業（通所型サービスB）の認定を受けて、より安定したイベント運営が可能になりました。

3. 考察

そんぼの家S新横浜西の所在地である城郷小机地区の地域包括ケアシステムの課題は、自立や要支援の高齢者に対する介護予防の場所が少ない事でした。介護や医療は専門機関が多く存在していますが、自立に近い方の介護予防は介護保険の対象外である為、インフォーマルな社会資源に頼る部分が多いです。しかし、そのような社会資源は少なく、活動したくても場所がなく活動困難な団体も多く存在していました。そんぼの家Sはイベント会場となる広い食堂があり、自宅として住宅地に作られている傾向があります。地域の中に存在するサービス付き高齢者向け住宅「そんぼの家S」です。そんぼの家Sが地域のニーズにマッチしました。しかし開催場所を提供するだけでは地域イベントは成功しないと思います。一般の地域住民で組織された「濱なかま」自身もSOMPO ケアや地域ケアプラザなど専門職のサポートを必要としていました。地域の活動を成功させ継続させるには活動団体をバックアップする必要があります。私は地域包括ケアとは高齢者を中心とした多職種連携を考えていましたが、濱なかま代表の目的は高齢者だけでなく子供から子育て世代、働ける元気な高齢者など、多世代に渡る地域住民への居場所と役割づくりです。世代を超えた地域の住民同士がイベントを通して関わり合い、家に籠もる事なく外で活動し、互いに見守り合い、異変を感じたら一人で悩まず周囲に相談し、簡単に専門職のサポートに繋がられる地域システムを作りたい。と広い視野をお持ちでした。私が考えていた地域包括ケアは一部の狭い範囲でしかなく、この住民同士の相互ケアは専門職には出来ない事です。専門職と地域住民が互いに協力して地域を包括的に支え合う事が本当の地域包括ケアシステムの姿だと思います。また、地域イベントに参加された方々が得た物は満足感や介護予防の効果だけではありませんでした。入居者様は近隣住民と外でも挨拶しあう関係を構築し、1人で外出した際の安心感に繋がりました。地域住民の方はそんぼの家Sで気軽に介護相談が出来き、地域包括支援センターからの情報を得られるようになりました。

4. おわりに

地域イベントを継続した結果、地域住民や地域包括支援センターからも様々な相談を受けるようになり、私はそんぼの家Sの役割は地域イベントを開催する事ではない。と考えを改めました。今の私が考えるそんぼの家Sの地域における役割とは、地域から「相談」を受ける場となる事です。サービス付き高齢者向け住宅で入居者様に提供しているサービスは介護予防ではなく生活支援としての「相談」です。入居者様から相談を受けて外部と連携しながら解決策を考えるのが私の仕事です。それは地域に対しても同じでした。地域からの相談を受けやすくする為、地域と馴染みの関係を構築する為の手段として地域イベントを開催する必要がありました。そして地域から相談を受けた際は、SOMPO ケアで培われた専門知識と事例を用いて地域の課題と一緒に取り組む。それが私が勤務するそんぼの家S新横浜西の地域での役割です。サービス付き高齢者向け住宅の入居者様の生活は館内だけではなくありません。入居者様が1人でも安心して外出できる地域、外に出かけたくなる何かがある地域が私は欲しいです。入居者様により良い生活を提案する為に、そんぼの家S新横浜西は地域に貢献し、地域作りのお手伝いをさせて頂きたいと思います。